



トークショーで思いを語るのんさん



映画「Ribbon」上映会

のんさん、おかえりなさい

「Ribbon」上映会

4月23日、のんさんが脚本・監督・主演を務めた映画「Ribbon」の特別上映会&のん監督トークショーがアンバーホールで開催。のんさんは、訪れた約300人の観客の前に、映画への思いや「第2のふるさと」久慈の話などを語り、会場を盛り上げました。上映会開催のきっかけは、のんさんを応援するため、久慈市観光物産協会、久慈商工会議所の女性メンバーが立ち上げた「KUJI×Ribbonプロジェクト」。2月に市を訪れたときに、リボンで装飾されたよむのすや商店街を目にして感激したのんさんが「久慈市で上映会をしたい」と話したことで実現したものです。

のんさんのブログで上映会を知り、仙台市から駆け付けたと話す桂山千代典さんは「リボンを使った表現が独創的で面白かったです。あーちすと」としての活動も頑張っていました。映画「Ribbon」は、全国で上映されているほか、デジタル配信も行われ、自宅で視聴できます。

Ribbonプロジェクト

4月22日、「KUJI×Ribbonプロジェクト」は、上映会に合わせて訪れたのんさんと一緒に、三陸鉄道「リボン号」の見学と久慈市民バス「リボン号」の発式を行いました。のんさんは、高校生まちおこし団体INSPIREが装飾した三陸鉄道の車両を訪問。願い事が書かれた

リボンやメッセージを見て「かわいい」と目を輝かせ、自身もメッセージを書いたリボンを飾りました。市民バス「リボン号」の発式では、放課後児童クラブCOCCO・RとCOCCO・AIR SAKURAの1、2年生の児童18人と一緒に、リボンのシールでデコレーションを行いました。飾りつけに参加した久慈小2年の八重櫻浩太郎さんは「シールをのんさんと一緒に貼って楽しかった。バスにまた乗りたい」と笑顔で話しました。

市民バス「リボン号」は、侍浜・川代・山根・久慈海岸の4路線で5月末まで運行。運行中は、乗客にリボンのシールを配り車内に貼ってもらうことで、よりたくさんリボンで飾りつけられていく予定です。

第2のふるさとプロジェクト

くじのんくじ、のんびり旅

市を多くの人々が「ふるさと」のように訪れる場所としてPRしていくと、「第2のふるさとプロジェクト『くじのんくじ、のんびり旅』を立ち上げました。応援マネージャーに就任したのは、久慈を「第2のふるさと」と語るのんさん。「くじのん」は、久慈のんびり旅を短縮したもので、久慈市とのんさんの頭文字にもなっています。

プロジェクトの第一弾は、のんさんをモデルに、久慈海岸・白樺美林・琥珀・まめぶをPRする4種類のポスターとパネルを作成。パネルは、のんさんの直筆サイン入りで、市内の施設や



のんさんがサインした等身大パネル

首都圏などに設置される予定です。実施期間は、来年の3月31日まで、おおよそ1年間を予定。最新の情報は、久慈市や北三陸「あまちゃん」観光推進協議会の公式SNSで発信します。

1、2/のんさんと一緒にバスをリボンで装飾 3/さまざまな色のリボンでデコレーションしたバス停 4/INSPIREが装飾を手掛けた三陸鉄道の前で記念撮影

